

世界遺産構成資産の紹介

3月末に県と市が、推薦書（原案）を文化庁へ提出しました。この推薦書は、平成30年度の国の文化審議会の課題に対して調査研究を行い、修正したもので、名称を「佐渡島の金山」に変更し、シンプルで呼びやすくしました。また、構成資産^{*1}を「西三川砂金山」と「相川鶴子金銀山」の2つにまとめました。

今回は、構成資産の史跡^{*2}をご紹介します。

※1 世界遺産として共通の価値を持つ文化財です。

※2 歴史的に価値が高いと国などが判断し、保護が必要とされる土地などをいいます。

1. 西三川砂金山

平安時代から砂金の採取が行われ、中世の頃から開発が進んだとされている西三川砂金山は、真野地区笹川集落とその周辺にあります。この笹川集落に足を運ぶと、おもむきある案内看板が出迎えてくれます。ここでは、砂金山の名主を代々務めた金子勘三郎家や、砂金を採るために掘り崩され、赤色の山肌が露出している虎丸山などを見ることができます。



◀西三川砂金山案内看板

▼虎丸山(撮影:西山芳一)



2. 相川鶴子金銀山

前回までの推薦書（原案）では「相川金銀山」と「鶴子銀山」は別の構成資産としていましたが、今回「相川鶴子金銀山（相川金銀山+鶴子銀山）」の一つにまとめました。



代官屋敷跡(発掘作業の様子)

鶴子銀山

天文11(1542)年に発見されたと伝わる鶴子銀山は、佐和田地区沢根と沢根五十里の山間部にあり、16世紀末に鉱山経営の中心になっていた代官屋敷跡が残っています。史跡の入り口には、駐車場や案内看板も整備されています。看板を頼りに代官屋敷跡や鶴子荒町遺跡(集落跡)周辺など散策してみてください。はいかがでしょうか。

相川金銀山

慶長元(1596)年に発見されたと伝わる相川金銀山は、相川地区市街地から東側の山間部にあります。この相川金銀山のシンボルといえば、人力で掘られた露頭掘り跡の「道遊の割戸」です。

また、相川金銀山には、鉱山での採掘の様子がわかる絵巻が多く残されています。中でも佐渡奉行所跡では、石臼(石磨)を使用した選鉱作業が紹介されているほか、製錬・小判製造の様子がわかる絵巻を見ることができます。



道遊の割戸(撮影:西山芳一)

☎世界遺産推進課 ☎63-5136